

●募集要項●

- 対象 ● 福島県内の幼・小・中・高等学校
 開催日時 ● 2016年7月～12月中旬ごろ
 開催場所 ● 各開催校
 経費 ● 応相談(基本的には無料ですが、規模や内容によって材料費などをご負担頂く場合がございます。)
- 申込期間 ● **7月1日(金)～随時受付(11月末まで)**
 ※申込日から開催日まで準備期間を2週間程度頂きます。
 ※各作家の**受入期間**は「募集内容」をご覧ください。
- 申込締切 ● **各作家の受入校数になり次第締め切ります。**
 ※各作家の受入校数は「募集内容」をご覧ください。
- 内容相談 ● 開催決定後に日程や詳細を相談します。
 ※各作家の相談方法は「募集内容」をご覧ください。
- 申込み方法 ● お申込みの際は**ご希望のワークショップ一つだけ**お選び頂き、下記の必要事項の内容とともに、ご応募ください。
- ◎(お電話で) **024-531-5511** (学校連携共同ワークショップ係)
 ◎(FAXで) **024-531-0447** (学校連携共同ワークショップ係)
 ◎ (メールで) **netmaster0@art-museum.fks.ed.jp**
 ゼロ
- 必要事項 ● ①お名前 ②学校名 ③学年 ④参加人数 ⑤参加形態(クラス・部活動・学年など) ⑥連絡先(住所・電話番号) ⑦希望するワークショップ名 ⑧希望する開催時期
 ※各作家の受入条件は「募集内容」をご覧ください。
- お問合わせ ● 福島県立美術館 **Tel:024-531-5511**
 (学校連携共同ワークショップ係)
- その他 ● お申込み頂いた後、担当より必ず確認のご連絡をいたしております。
 ※FAX・メールにてお申込みの際は、確実に送信出来ているかをご確認ください。
 ※お申込み頂いたお名前や連絡先等の個人情報は、本事業の目的以外には使用いたしません。

■学校連携共同ワークショップとは?■

アーティストを講師に招き、各学校で児童・生徒対象のワークショップを開催する事業です。招いたアーティストが学校に向いて児童・生徒と交流しながら創作活動を楽しみます。日程と内容の詳細は、開催校の先生とアーティストが相談して決定します。

アーティストごとの募集内容

アサノコウタ さん

- 7月以降に随時開催できます。
- 受入校数は、幼・小・中・高あわせて5校程度です。
- 1度のワークショップにつき最大40名まで受入可能です。(それ以上の場合は、分けて、別な時間、別な日程で調整できます。)
- 事前打合せは、電話やメール、FAXなどでも可能です。
- 2日以上開催も可能です。(お問合せください。)

佐藤 香 さん

- 7月～9月半ばまで随時開催できます。
- 受入校数は、幼・小・中・高あわせて5校程度です。
- 1度のワークショップにつき最大40名まで受入可能です。(それ以上の場合は、分けて、別な時間、別な日程で調整できます。)
- 事前打合せは、電話やメール、FAXなどでも可能です。
- 2～3日間の開催も可能です。(お問合せください。)
- 制作の場所は、屋外をおすすめします。(お問合せください。)
- 建物の壁面などにも描写が可能です。

フライデースクリーン

- 7月以降に随時開催できます。
- 受入校数は、幼・小・中・高あわせて3校程度です。
- 1度のワークショップにつき最大32名まで受入可能です。(それ以上の場合は、分けて、別な時間、別な日程で調整できます。)
- 事前打合せは、美術館にて三者(作家、先生、美術館スタッフ)で行います。
- 2日間の開催も可能です。(お問合せください。)

表紙イラスト：小原風子(福島市出身 絵本作家)

福島芸術計画 × ART SUPPORT TOHOKU-TOKYO

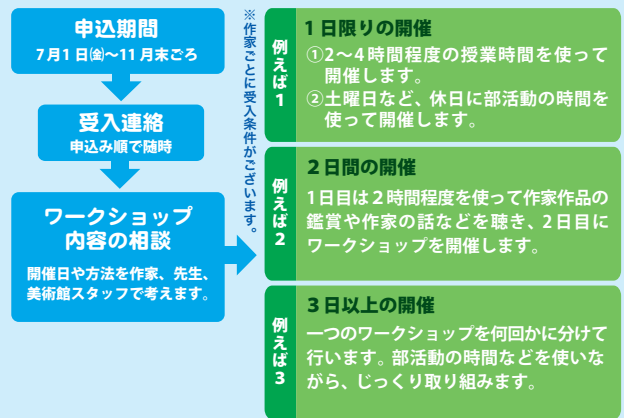
福島芸術計画 × ArtSupport Tohoku-Tokyo (東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業)は、福島県、東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施する事業です。文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興を支援します。



本事業は全くし収益の助成を受けています



©小原風子



12月～1月の時期に移送可能な作品等がある場合は、当館展示室またはエントランスホール等で「作品展」を開催します。

学校連携共同ワークショップ 参加校募集

福島芸術計画 × ART SUPPORT TOHOKU-TOKYO 福島県立美術館
 FUKUSHIMA GEIJUTSU KEIKAKU TOHOKU-TOKYO Fukushima Prefectural Museum of Art
 福島県、東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、NPO法人 Wunder ground



《ワークショップ コンセプトイメージ》

【ウチ】をつくる

家(いえ)のことを家(うち)と呼びます。
 これは潜在的に、“内”側として家(いえ)をとらえているからです。
 自分のとっておきの空間となる【ウチ】をつくりましょう。
 大好きなもので囲まれた空間。
 身の回りのものでつくられた空間。
 子どものための空間。犬のための空間。ぬいぐるみのための空間。
 【ウチ】という空間はどのようなものなのか、みんなで話し合いながら、たくさんの【ウチ】をつくりましょう。そうすると【ウチ】の外には、いつのまにか【マチ】ができていくはず。

アサノ コウタ (建築家)



1983年福島市出身。
 慶応大学SFC政策・メディア研究科修士課程修了。
 震災後、屋内公園をデザイン。2011年〜「プロジェクトFUKUSHIMA!」の福島大風呂敷(2011年 福島市)などでディレクションを担当。個人活動として、ショップ内装や住宅などのデザインをする他、2011年 越後妻有の林間学校講師、2013年 福島芸術計画(いわき市)、2014年 札幌国際芸術祭2014(北海道札幌市)、アラフドアートアニュアル2014(福島市土湯)他多数のアートプロジェクトに参加。古民家鑑定士。福島学院大学非常勤講師。FMボコラジオパーソナリティ。



《宴2》 2012 撮影：中村脩

大地のえのぐで絵をえがこう！

あなたが暮らす場所の土は何色ですか？ワークショップでは、自分が暮らしている身近な場所からとれた「土」から絵の具をつくり、絵を描きます。いつもは、歩くだけの地面。でもよく観ると「こげ茶色」「おうど色」などなど土の色はさまざまです。もしかして、君の暮らす場所にしかない土の色があるかもしれません。いろんな色の土を探し絵の具にしたら、紙やキャンパス、カベなどへ思うがままに絵を描いてみましょう！きっと君たちの住む場所でも描けない素敵な絵画が出来上がるはず。

佐藤 香 (土絵作家)



1987年 田村市出身。
 2012年 東京芸術大学大学院壁画専攻修了。
 修了制作展で発表した実家の土で描いた「私の故郷、福島」をきっかけに、滞在した場所の土で絵を描く制作スタイルで活動中。2012年 会津・漆の芸術祭(喜多方市)、2013年 原始感覚美術祭(長野県大町市)、2013年 風と土の芸術祭(美里町)、2014年 手作り本仕込みゲイジユツ展(はじまりの美術館)、2014年 1/1000,000 妻有展(里山現代美術館)、2015年 大地の芸術祭(新潟県十日町市)などで滞在制作。



《おはよー！種(和紙の山、知育クッション、サウンドインスタレーション)》 2016

ことばと絵の音

わたしたちの仕事は「つくる」ことです。物だけでなく、目に見えない「つながり」や「きっかけ」をつくったりもしています。
 みんなのまわりにも目に見えないものはたくさんあります。普段聞いたり、口にしたりしている「音」や「言葉」も目には見えないものです。でも、みんながイメージを膨らませて少し工夫をすれば、それが目に見えるようになったり、新しいものに変身したりします。
 今回は「ことば」と「絵」と「音」を使って、みんなでひとつの作品をつくるワークショップです。

FRIDAY SCREEN フライデースクリーン (アートユニット)



2015年 活動開始
 “From Local, For Local, With Local”をコンセプトに、デザインによる福島の地域資源の発掘と発信を目的に活動しているクリエイターの鈴木孝昭とテキスタイルアーティストの坂内まゆ子によるユニット。地域に密着したプロダクトやグラフィックといったデザインの仕事のほか、イベントの企画や運営をはじめ、他分野の専門家とコラボレーションした商品開発やワークショップを行うなど様々な活動を行っている。